

Contents

技能実習・講習会の開催 P1

木製品・窯業実習コース
座学コース

試験室だより P4

道産木材の性能評価
木材の表面硬さについて

窯業研究室の取組 P7

テストピースによる実験から試作に至るまで

各種イベント・展示会 P9

旭川木工技能競技大会 2022
木彫りの源流 ～旭川木彫・工芸品協会展～
26th 旭川陶芸フェスティバル
家具産地旭川展 in 羽田空港
IFFT 東京国際家具見本市

技能五輪大会への出場 P11

旭川地域の木工職人3名の健闘

新たな試験機の導入 P12

恒温恒湿試験機（ウォークインチャンバー）

製造業実態調査の結果概要 P13

家具・建具・工芸品・陶磁器製造業の令和3年度の状況

その他のお知らせ P15

北海道産広葉樹利用促進研究会の設立
工芸センター運営委員会
人事異動報告



工芸ニュース Vol.86web 版はカラーでご覧いただけます

技能実習・講習会の開催

～地域の技術者から若手へ～

工芸センター職員や、旭川地域で活躍されている熟練技術者や経営者の方を講師に招き、実習・座学を開催しました。多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。

今後も木工・窯業業界の発展に寄与できるよう、ものづくりに関する様々なテーマで講習会を企画・実施していく予定です。多くの方々のご参加をお待ちしています。

1 木製品実習コース

①木工旋盤研修 ～木工旋盤の基礎的な加工技術

講師：阿部 泰範 氏（阿部木地工芸所代表）

実施日：令和4年9月13日～11月10日（うち16日間）

受講者：49名

地域の熟練技術者を講師に迎え、木工旋盤の基礎的な加工技術を学ぶための実習を開催しました。たいへん盛況で、予想を大きく上回る多くの方々にご参加いただきました。

実習は6人前後を1グループとして、2日間に分けて行いました。

1日目はコマを題材に、講師に見本を製作実演していただいた後、講師が隣につき、刃物の当て方や加工を失敗した理由などについて丁寧な指導を受けながら、受講者一人一人が製作を行いました。刃物が切れなくなった際には、刃物研磨の実演も行いました。

2日目は家具の脚部を題材にして、1日目と同様に実演、製作を行いました。最後には講師による実際の商品の加工実演等も行いました。

熟練した技術を間近に見ることができ、また様々なアドバイスをもらったりと、大変有意義な研修になりました。



熟練の技術を間近に見る



講師が横について丁寧に指導

②汎用木材機械加工操作講習

講師：センター職員

実施日：令和4年5月9日～19日（うち8日間）

受講者：20名

昨年に引き続き、若い社員や学校などで学んで来ていない社員等に対して汎用機械の基礎的な操作及び知識を学ばせたいという要望が多く企業の企業から寄せられたことから、今回の研修を行いました。

機械作業の服装から、クロスカットソー、リップソー、手押しかな盤、自動一面かな盤、昇降盤、テーブル移動式丸鋸盤、帯鋸盤の7機種について説明を行いました。

受講者は、熟練者や高等技術専門学院卒業生などが多く、機械の使用方法や安全等の再確認をされている方が多く見られました。

ふだん使用している機械をより安全に使用方法や、怪我をしないための治具などの質問に答える形式で研修を進め、どの参加者にも意欲的に学んでいただきました。



2 窯業実習コース ～いやしの小物づくり～

講師：センター職員

実施日：令和4年10月～11月

受講者：10名

当センターでは、様々な釉薬や装飾技法に関するテストピースを日々焼成しています。中には少し派手な発色や細かな貫入、凹凸のあるものなど、食器には使いづらいものも多数ありますが、それらのテクスチャーはとても面白く魅力的です。そのようなテストピースの色や質感から、直感的かつ創造的に、暮らしに潤いと癒やしをもたらすような置物やアクセサリなどの小物づくりをテーマに実習を行いました。

小物づくりは原材料費や焼成費を抑えることができる上に、付加価値を高めた製品開発が可能であるため、物価・燃料費が高騰している現状と調和する点や、食器に留まらない多彩なアイテムづくりにつながる点などにおいて関心を集め、例年と比較し、幅広い年代及び様々な作風の方々に受講していただくことができました。

研修最終日には個性あふれる味わい深い作品が多数並び、受講された方々の間で活発な情報交換が行われたほか、熟練者から若手の方々に技術的なアドバイスをされる場面が見受けられるなど、当センターから一方的に発信するばかりではなく、受講された方々と共に作り上げる有意義な研修会となりました。



テストピース観察



製作実習

3 座学コース

①独自の作風を追い求めて ～古陶磁からの発想・季節の花々とともに～

講師：千尋 悠子 氏（千尋窯 主宰）
実施日：令和4年9月8日
受講者：16名

講師の陶芸との出会いとこれまでの歩みや、造形において大切にしていること、古陶磁の魅力などのお話しのほか、花々をモチーフとした絵付けの実演などを行いました。



②有限会社ワカサ × YouTuber ～旭川家具と人気 YouTuber の共同製作プロジェクト～

講師：若狭 弘典 氏（有限会社ワカサ代表取締役）
宮川 福之 氏（同社製造管理部
企画・開発・国際事業）
実施日：令和4年9月14日
受講者：20名

家具メーカーと建築家 YouTuber との共同製作プロジェクト実現までの経緯や、開発のエピソード、その後の反響、メリットとリスクなどについてお話しいただきました。



③旭川地域の木工技能について ～「技能推進と産地育成」、「技能五輪大会出場経験談」～

講師：木村 亮三 氏（株式会社ガージーカムワークス 代表取締役）
吉田 理玖 氏（株式会社プレステージジャパン）
小亀 弦 氏（株式会社ガージーカムワークス）
実施日：令和5年2月9日
受講者：51名

旭川地域の木工技能や競技会開催に至る経緯、技能五輪大会出場者の育成、出場者による大会体験談などをお話しいただきました。





試験室だより ①



～道産木材の性能評価～

15 ページでも紹介していますが、11 月に道産未利用材の活用を目的とした『北海道産広葉樹利用促進研究会』が発足し、工芸センターでは研究会から提供を受けた木材の性能評価を実施していますので、その結果を紹介します。木材は、比重が大きくなるにつれ強度が向上すると言われており、今回の結果も概ね同様の結果となっています。しかし、比重が小さくても粘り強い材、接着剤の食いつきが悪い材、柾目面と板目面で強度特性が異なる材など、様々です。

●供試体

樹種	13 種類 ①道産材：11 ②道外産：1 ③輸入材：1
供試体の状態	一定期間室内に静置 ※試験時の含水率は試験結果に記載
測定面	①柾目面 ②板目面

- 試験項目 ①曲げ強さ (JIS Z 2101 - 15 木材の試験方法)
 ②せん断強さ (JIS Z 2101 - 17 木材の試験方法)
 ③圧縮せん断接着力 (JIS K 6852 接着剤の圧縮せん断接着強さ試験方法)
 ※接着剤は α -オレフィン系を使用

●測定結果

No	樹種	比重 (全乾)	含水率 (%) ※試験時	曲げ強さ (kgf/cm ²)	せん断強さ (kgf/cm ²)		圧縮せん断接着力 (kgf/cm ²) ※ () 内は破断率	
					柾目	板目	柾目	板目
1	ナラ	0.71	6.3	1,830	190	208	143 (100)	157 (55)
2	タモ	0.66	6.4	1,310	—	—	142 (90)	155 (85)
3	イタヤカエデ	0.64	7.1	1,290	189	224	155 (55)	131 (55)
4	メジロカバ	0.61	9.6	1,280	—	—	—	183 (90)
5	ニレ	0.60	5.7	1,048	144	145	140 (45)	124 (85)
6	ヤマザクラ	0.59	9.3	1,110	148	176	94 (90)	126 (90)
7	セン	0.52	6.5	990	141	126	106 (100)	84 (55)
8	クルミ	0.48	6.7	820	138	159	127 (50)	112 (60)
9	クリ	0.47	6.6	715	123	132	102 (100)	115 (95)
10	キハダ	0.46	7.0	850	110	134	124 (80)	104 (75)
11	カツラ	0.44	6.9	820	116	119	85 (90)	94 (95)
道外産材・輸入材								
12	ケヤキ	0.72	5.0	1,124	217	178	126 (65)	146 (55)
13	ウォールナット	0.65	5.8	1,230	144	146	106 (100)	144 (95)

試験室だより ②

～木材の表面硬さについて～

テーブルの強度試験時に『天板の凹みや傷』について質問を受けることがあります。天板の凹みや傷に対する試験方法として『鉛筆による引っかき』を思い浮かべる方が多いと思いますが、他にも鉄球をある一定の深さまで圧入した時の荷重値で確認する方法もあります。

今回、道産木材の『表面硬さ』を後述の方法（ブリネル硬さ：JIS Z 2101 - 21）で測定しましたので、その結果を紹介します。

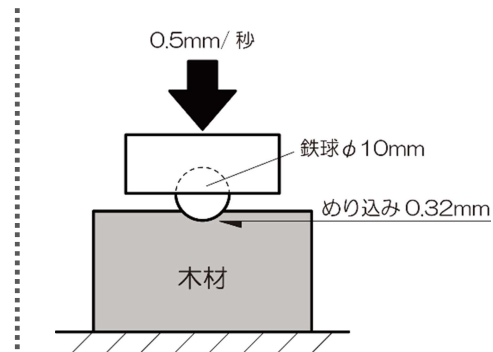
木材の表面硬さ（ブリネル硬さ）の測定

●供試体

樹種	11種類 ①道産材：9 ②道外産：1 ③輸入材：1
供試体の状態	一定期間室内に静置 ※試験時の含水率は試験結果に記載
測定面	①柵目面 ②板目面 ※無塗装

●試験方法（JIS Z 2101 - 21 木材の試験方法）

- ①直径 10mm の鉄球を先端に取り付けた治具を木材に接触させる
- ②0.5mm/秒の速度で荷重を加える
- ③木材表面から鉄球が0.32mmめり込んだ時点の荷重を万能試験機で測定（1面につき3～4カ所）する



●試験結果（測定ポイント 16 箇所の平均値）

No	樹種	比重 (全乾)	含水率 (%) ※試験時	表面硬さ (kgf)		板目/柵目
				柵目	板目	
1	ナラ	0.71	6.3	21.2	27.1	1.28
2	イタヤカエデ	0.64	7.1	21.2	29.6	1.40
3	ニレ	0.60	5.7	15.7	17.9	1.14
4	ヤマザクラ	0.59	9.3	20.8	27.1	1.30
5	セン	0.52	6.5	11.8	13.8	1.17
6	クルミ	0.48	6.7	14.2	22.1	1.56
7	クリ	0.47	6.6	12.1	18.7	1.55
8	キハダ	0.46	7.0	6.8	8.9	1.31
9	カツラ	0.44	6.9	8.7	10.5	1.21
道外産材・輸入材						
10	ケヤキ	0.72	5.0	19.4	23.1	1.19
11	ウォールナット	0.65	5.8	19.3	25.9	1.34

- 考察 散孔材（イタヤカエデ、ヤマザクラ、ウォールナット）が全体的に高い表面硬さを示しており、比重が小さいクルミであっても、板目面に限ってはニレを上回り、ケヤキとほぼ同等の表面硬さを有しています。
環孔材では、ナラが柾目面・板目面ともに優れており、イタヤカエデとほぼ同等の結果となっています。また、本試験では、全ての材において板目面が柾目面よりも硬い（14～56%）ことが確認されました。

塗膜の光沢度の測定（自主規格）

テーブル天板については塗膜の光沢や汚染を気にされる方も多いため、『正しい』と言われるメンテナンス方法（希釈した中性洗剤）と『間違っている』と言われる方法（乾いた雑巾、シンナー、化学雑巾）を比較したので、検証結果を紹介します。

※今回の試験では、実際のメンテナンスよりも大きな負荷を加えています。

●供試体

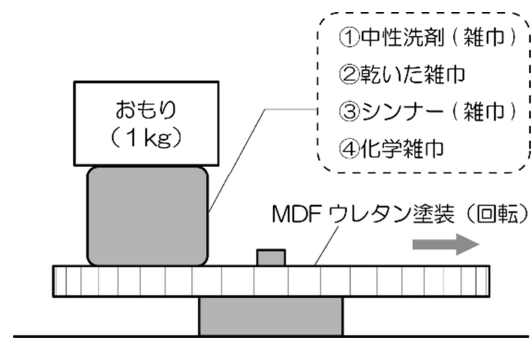
素 材	MDF
表面仕上げ	ウレタン塗装（中塗り+上塗り）
メンテナンス材 （4種類）	①希釈した中性洗剤（雑巾） ②乾いた雑巾 ③シンナー（雑巾） ④化学雑巾

●測定条件

光沢計	堀場製作所 IG-331
測定角度	60°（入射・受光ともに）
測定回数	①試験前 ②1,000回転 ③3,000回転 ④5,000回転

●試験方法

- ①表面が 25×25（mm）の木材に拭き上げ材（4種類）を貼り、塗装面に接触させる
- ②メンテナンス材の上に 1kgのおもりを積載
- ③供試体を 70回転/分の速度で回転させる
- ④規定回数ごとに光沢度を測定する
※中性洗剤、シンナーは定期的に噴霧する



●試験結果

No	メンテナンス材	光沢度			
		試験前	1,000回転	3,000回転	5,000回転
1	希釈した中性洗剤（雑巾）	8	8	9	10
2	乾いた雑巾	9	9	16	31
3	シンナー（雑巾）	10	17	26	20
4	化学雑巾	10	17	29	32

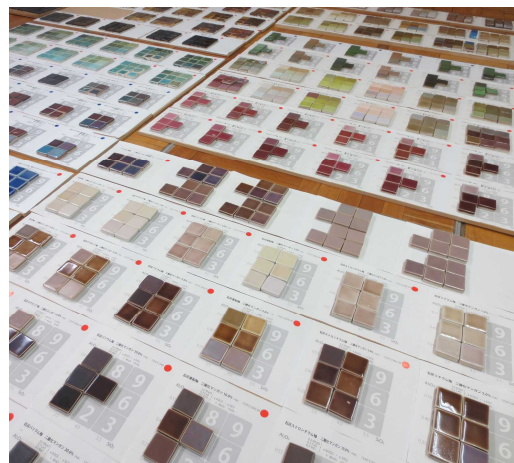
- ①中 性 洗 剤：光沢度はわずかに高くなったが、大きな変化は見られなかった。
- ②乾いた雑巾：1,000回転までは光沢度に変化はないが、それ以降徐々に光沢度が増加。
- ③シ ン ナ ー：序盤から光沢度が増し3,000回転まで続き、それ以降は塗膜を侵すようになり光沢度が低下。（※元の塗膜との境界が目違いが発生）
- ④化 学 雑 巾：シンナー同様、序盤から3,000回転までの間に光沢度が増加。それ以降は大きな変化なし。

旭川工芸技術等継承事業 窯業実習コースでは“いやしの小物づくり”をテーマに製作実習を行いました。

作品を製作する際に拠り所となるものが、当センターで日々生まれる多数のテストピースです。

今回の実習では、釉薬や化粧土の調合の他、様々な装飾技法に関するおよそ 2,000 枚のテストピースを一堂に並べてご覧いただき、その発色や質感から直感的に試作に取り組んでいただきました。

当センターにおいても、四角い平らなテストピースだけではなく、具体的な活用例をご覧いただきたいと考え試作に取組みましたので、その過程について一部ご紹介いたします。



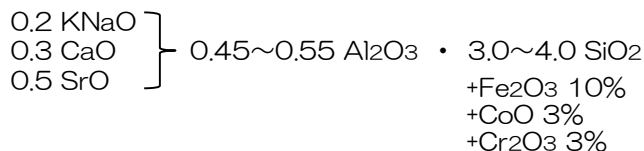
多数のテストピース

1 黒釉の調合と試作例

- (1) 酸化第二鉄 (Fe_2O_3) を主な着色材とし、酸化コバルト (CoO) 及び酸化クロム (Cr_2O_3) を補助的に添加して黒釉を調合するにあたり、過去のテストピースから、それらの発色をより黒に近づけることに効果的であると期待される石灰ストロンチウム釉を基礎釉に選んでテストしました。

その結果、良好な黒の発色を得ることはできましたが、釉縮れが多発してしまいました。

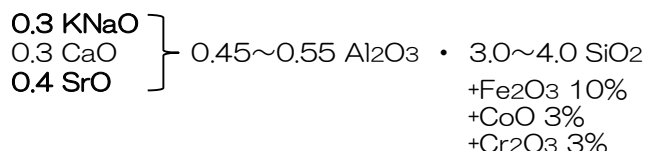
[ゼーゲル式]



- (2) 釉縮れの改善策について検討の結果、酸化ストロンチウム (SrO) の一部を酸化ナトリウム・酸化カリウム (KNaO) に置き換えることにしました。

この程度の置き換えであれば発色や質感を大きく変えることなく、釉薬の粘性を抑えるとともに表面張力を小さくすることができ、釉縮れを改善することができました。

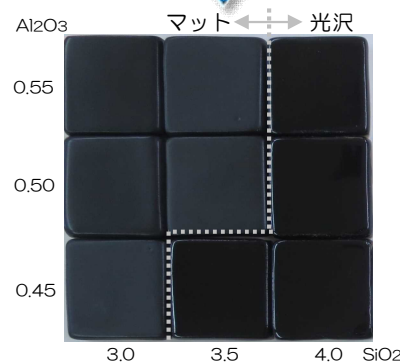
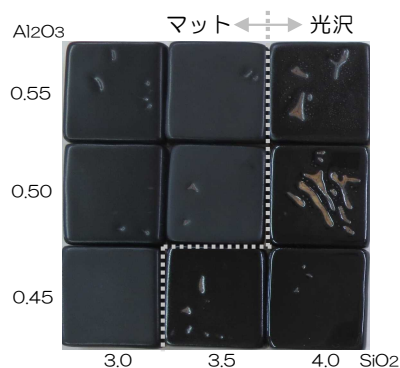
[ゼーゲル式]



- (3) 漆黒の発色を生かすため、黒猫の後ろ姿を模したブローチを製作しました。

作品自体の縁や、しっぽの凹凸のように釉縮れが起こりやすい部分も問題なく仕上がることを確認しました。

飴釉と掛け合わせるにより、三毛猫も表現してみました。



試作品 (猫のブローチ)

2 レーザー彫刻機を活用した木製押し型の製作と試作例

(1) 手作業では難しい緻密で繊細な柄を陶磁器に立体的な装飾として施すため、レーザー彫刻機で木製押し型を製作しました。

今回は、レースペーパーをイメージした円形のレース柄の押し型を製作し、その型をタタラ成形時に粘土に押し当てた後、手おこしで皿状に成形しました。



レーザー彫刻機



彫刻時の様子



製作した木製押し型

(2) 使用する釉薬は、多数のテストピースの中から、装飾を立体的に浮かび上がらせることに効果的と思われる透明感がある色釉や、釉薬の薄い部分と濃い部分で釉調に大きな変化が現れやすく、美しいコントラストが期待できるものを選びました。その多くが当センター独自の調合によるものですが、石灰3号釉にアレンジを加えたものも一部に使用し、市販の釉薬の活用法についても提案しました。

石灰3号釉は、着色材を添加することにより透明感及び光沢感強い色釉を得られますが、それ以外にも、マグネサイトやカオリンを添加することによりマット釉を得られるなど、幅広い活用が期待できます。以下に、今回の実習において特に注目度が高かった活用例を掲載します。

石灰3号釉の活用例

マグネサイト 20% 添加

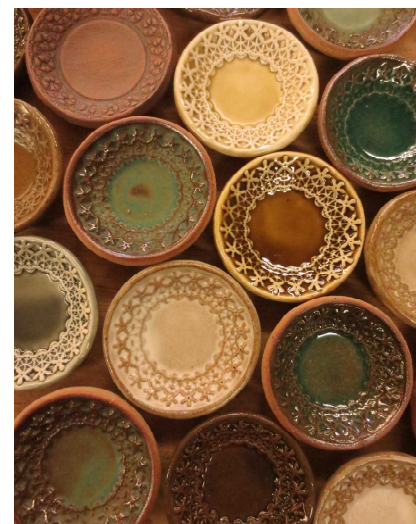


白マット釉

酸化ニッケル0.5%
酸化コバルト0.2% 添加




透明感・光沢感があるグレーの色釉



試作品（豆皿）

他にも、紙面ではご紹介しきれない多数のテストピースと試作品があります。それらのテストピース一つ一つに意味があり、試作品一つ一つにお伝えしたい技術があります。



ご興味をお持ちいただけましたら、お気軽にお問い合わせください 

1 旭川木工技能競技大会 2022

Meetup Furniture Asahikawa 2022 において、第1回目となる旭川木工技能競技大会 2022 が開催されました。競技内容は、留め形天秤差接ぎを手加工で1時間以内に完成させるものです。予選には24名が参加し、これを勝ち抜いた上位10名が6月26日の決勝戦に臨みました。工芸センターでは競技課題の考案や競技会における採点支援などを行いました。

決勝戦は日曜日ということもあり選手の家族や同僚を含めた多くの市民が観戦に駆けつけました。出来映えなどを採点した結果、山口智大さん（ガージーカムワークス）が栄えある第1回目の優勝者となりました。



2 木彫りの源流 ～旭川木彫・工芸品協会展～

旭川木彫・工芸品協会が主催する「木彫りの源流 ～旭川木彫・工芸品協会展～」が、7月24日から29日までの6日間、イオンモール旭川駅前にて開催されました。

旭川の木彫の魅力を幅広い世代に発信することを目的に、毎年、子どもの長期休暇期間に合わせて開催される同イベントでは、会員による作品の展示販売や木彫りの実演などが行われています。第5回目となる今回は、前回に引き続き4名の会員が出展し、外国人観光客を含めた多くの来場者で賑わいました。

各ブースには熊やフクロウなどの伝統的な木彫作品を中心に、生活雑貨のほか、白熊やパンダといった時流に合わせた作品も並び、訪れる人の興味を惹き付けていました。大型木彫との撮影スペースや子ども向けのワークショップコーナーも設置され、親子連れや学生グループらが、作品に直に触れて感触を確かめながら、思い思いに楽しむ姿が見られました。木彫りの実演では、来場者だけでなく通りかかった買い物客も足を止め、職人達の巧みな技を食い入るように見つめていました。



3 26th 旭川陶芸フェスティバル

このイベントは「自然にやさしく、人にやさしく」をテーマに、やきものの普及と愛好家の拡大、やきものが持つ人と環境に対するやさしさへの理解を深めてもらうことを目的として、旭川やきもの協会の主催により、例年9月に開催しています。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止が続き、3年ぶりの開催となった今回は、9月24日・25日の2日間、旭川地場産業振興センターを会場に、全道から79窯が一堂に会して行われました。

感染対策を講じた上での開催のため、例年人気の陶芸体験や電動ろくろ実演などの楽しい催しは、残念ながら実施を見合わせる事となりましたが、開催を待ちわびた市民や観光客約11,000人が訪れ、大盛況のうちに終わることができました。

出展された方々からは「久しぶりに沢山のお客様に楽しんでいただくことができ、嬉しかった。」「市民の皆様がこのイベントを大切に思ってくださいの気持ちが伝わってきた。ありがたいことだと思う。」などの声が寄せられ、活気を取り戻しつつある様子を肌で感じ、再開できた喜びをかみしめているようでした。

次回の旭川陶芸フェスティバルは、令和5年9月に同会場での開催を予定しています。



4 家具産地旭川展 in 羽田空港

新型コロナウイルスの影響で旭川家具業界の売上が減少している中で、旭川家具のファンを増やし消費拡大につなげて行くことを目的に、羽田空港の出発ロビーで家具産地旭川の魅力をPRしました。

10月1日～3日に旭川家具工業協同組合の主催で行われたこの企画では、旭川家具の展示や、デザイン都市旭川のパネル展示のほか、タレント杉村太蔵氏らによるトークイベントなどが行われました。

旭川が家具産地であることを知らない方から、実際に旭川家具を使っているという方まで、のべ3,600人の方々に立ち寄りいただきました。

説明的ではなく感覚に訴える展示をコンセプトにしたことで、時間的余裕が少ない空港という場所においても、訪れた人に「旭川＝家具産地」という認識を持っていただき、また旭川家具の洗練されたイメージを知っていただくことができました。



5 IFFT東京国際家具見本市

日本最大級の家具・インテリア専門の見本市「IFFT 2023 / 東京国際家具見本市」が2月28日～3月3日に東京ビッグサイトで開催されました。

出展は飛騨高山との産地間コラボの形式で行われ、旭川家具のブースには、ガージーカムワークス、カンディハウス、ササキ工芸、大雪木工、匠工芸、ビュート、WOWの7社が出展しました。

会場には4日間で23,719人と多くの方が来場されました。



1 技能五輪国際大会 (Worldskills Competition Special Edition 2022)

世界中の若手職人がその技能を競うために、2年に1度、技能五輪国際大会が開催されています。今回の大会は新型コロナウイルスの世界的蔓延による影響を受け、当初予定していた上海大会2021を1年延期し開催年を2022年としたものの、各国の更なる感染者増を受け、大会直前に選手が一堂に会する中国・上海での開催を断念することになりました。

その後、各競技種目の分散開催が検討され、スペシャルエディションとして、家具職種はスイス・バーゼルで10月11日から14日での開催が決定しました。

選手は度重なるスケジュール変更によって練習計画にも影響を受けるなど精神的なプレッシャーも例年より大きかったことと思われます。吉田理玖選手（株式会社プレステージジャパン）は3種類の競技課題を大会直前まで練習し続け、台湾主催のオンライン大会にも参加するなど、22時間という時間内での完成を目指して手加工や機械加工の習熟に努めました。

当日変更された競技課題は引出しの吊り方に特徴があるライティングビューローで、結果は16位と入賞には及ばなかったものの、体調がすぐれない中健闘しました。

次回の国際大会はフランス・リヨン2024での開催が予定されています。



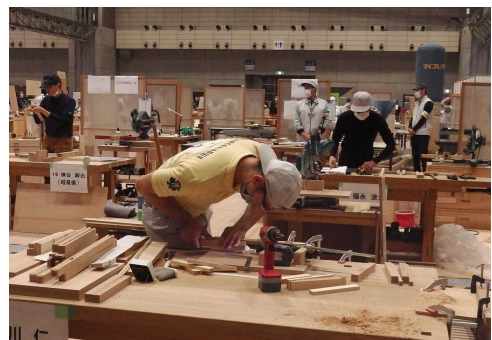
2 技能五輪全国大会

今年の全国大会は、千葉にある幕張メッセを会場として、11月5日・6日に開催されました。家具職種には旭川からガージーカムワークスの小亀弦選手と杏和建具の中川仁選手の2名が出場しました。課題は脚部と箱部がスライドして分離出来る上蓋付きの小型収納家具でした。

受入研修では、部分練習と通し練習を組み合わせ制限時間内に課題を完成させることが出来るように大会2ヶ月前から課題製作を繰り返しました。結果は、全国から強豪多数が参加する中、両名とも敢闘賞に入賞することができました。次回は国際大会の予選を兼ねた全国大会となり愛知での開催が予定されています。今後も旭川地域の若手職人が技能大会に出場する機会があると思われませんが、今回の経験を生かし選手のスキルアップに貢献し、より充実した研修となるよう支援していきたいと思えます。



小亀選手



中川選手



新たな試験機の導入

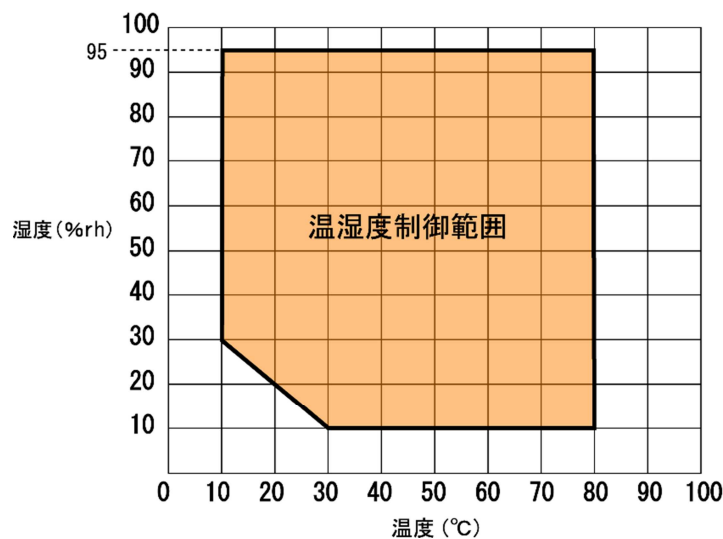


恒温恒湿試験機（ウォークインチャンバー）

恒温恒湿試験機は、環境（温度・湿度）変化による製品の寸法安定性（膨張・収縮）や変形（反り）、素材割れ等を検査する試験機です。これまでは、小型チャンバーによる部材試験のみの対応でしたが、今回、製品実物での試験が可能な大型のタイプ（ウォークインチャンバー）を導入しました。 ※ 試験手数料：2,560 円/日



- 名称：恒温恒湿試験機（エスペック社 TBR-3EAOPZ）
- 室内寸法：幅3,020 ・奥行1,970 ・高さ2,100（mm）
- 運転モード：定値運転、プログラム運転
- 仕様：温度範囲 $-10\sim+80^{\circ}\text{C}$
湿度範囲 $10\sim95\%rh$
温湿度変動 $\pm 0.5^{\circ}\text{C} / \pm 4.0\%rh$
- 制御範囲：温度・湿度の両方をコントロール出来る範囲は下図のとおり



※条件によっては制御範囲（網掛部）外での運転も可能ですが「温湿度を一定に保てない」「長時間運転ができない」という不安定な状態になります

※フロストフリー範囲が広く、低温度域でも霜がつかず長時間の連続試験が可能です



製造業実態調査の結果概要



家具・建具・工芸品・陶磁器製造業の令和3年度の状況

当センターでは、旭川地域の木製品製造業界及び陶磁器製造業界の実態を把握するための調査を実施しています。家具製造業及び建具製造業は毎年、工芸品製造業及び陶磁器製造業は隔年での実施となっています。

調査の結果、令和3年度における旭川地域全体の総売上高と総就業者数は、次のように推計されました。

●令和3年度の旭川地域全体の総売上高及び総就業者数（推計値）

	推計総売上高 ^{※1}		推計総就業者数	
	今回調査	前回調査 ^{※2}	今回調査	前回調査 ^{※2}
家具	152億円	143億円	1,427人	1,396人
建具	14.4億円	18.2億円	139人	141人
工芸品	6.3億円	7.3億円	112人	119人
陶磁器	0.5億円	0.8億円	49人	55人

※1 総売上高には消費税を含む。

※2 前回調査は、家具及び建具は令和2年度実績値。工芸品及び陶磁器は令和元年度実績値。

1 家具製造業

令和3年度における旭川地域の総売上高の推計値は、令和2年度比6.3%増の152億円となりました。令和2年度には一時的に推計総売上高が大きく落ち込みましたが、令和3年度はコロナ禍前の令和元年度と同じレベルにまで回復した結果となっています。

総従業員数の推計値は、令和2年度比2.2%増の1,427人となり、総売上高と同様に伸びを示しています。これは、近年の中では比較的多くの新規採用があったことによるものです。

各事業所が抱える課題としては、ウッドショックに端を発する木材価格高騰の影響から、「原材料の確保」を挙げる事業所が大きく増加したほか、「施設設備の老朽化」や「人材育成」、「熟練工の高齢化」などが依然として多く挙げられました。

今後の経営見通しについては、3割以上の事業所で受注が減少すると見込んでおり、特に売上規模の小さな事業所においてその傾向が顕著でした。

調査実施時点において、ウッドショックの影響は未だ大きく、新型コロナウイルス感染症も依然として衰えを見せていませんが、推計総売上高が回復基調に転じるなど、今後への期待を感じさせる結果となりました。

2 建具製造業

令和3年度における旭川地域の総売上高の推計値は、令和2年度比20.7%減の14.4億円となりました。近年の総売上高は、平成30年度の約22億円をピークに減少が続いています。

回答事業所の8割以上で前年より受注が減少しており、特に従業員規模の大きな事業所で売上高が大きく減少している傾向にありました。要因としては、コロナ禍に起因する商談等の減少、建築需要の落ち込み、資材の不足や高騰等による工事の延期などが想定されます。

各事業所が抱える課題としては、家具製造業と同様に、「原材料の確保」を挙げる事業所が前年度より飛躍的に増加したほか、「施設設備の老朽化」や「熟練工の高齢化」が依然として多く挙げられました。

3 工芸品等製造業

令和3年度における旭川地域の総売上高の推計値は、令和元年度比で13.7%減の6億3千万円となりました。約40%の事業所が、令和元年度より収入が減少したと回答しており、厳しい状況がうかがえます。

出荷先については、以前は道外が70%を超えていましたが、中国や韓国をはじめとする外国人観光客の減少に伴い、道外の観光地や百貨店、小売店からの注文が減少したこと等により、60%台前半にまで落ち込む結果となりました。

課題としては、材料の確保が以前より難しくなった点が多く、多くの事業所から挙げられています。原材料の値上がり等を受け、木材を買い控え、在庫している材料を使用している傾向がみられます。

また当センターに対して、展示会開催への支援等を望む声が多く寄せられるなど、コロナ禍で減少したバイヤーやユーザーへのPR・販売等の場が求められているという状況が、あらためて把握されました。

4 陶磁器製造業

令和3年度における旭川地域の総売上高の推計値は、コロナ禍前の平成29年度比で53%減、令和元年度比で36%減の5,300万円となりました。これは以前から高齢化や後継者不足により生産が減少傾向であったことに加え、コロナ禍の影響により主要な展示会や即売会が全面的に中止になり、休業や規模縮小に追い込まれた窯が多かったこと等に起因していると考えられます。

また燃料費や物価高騰が追い打ちをかけ、焼成の回数を減らしたり、窯詰めの際には可能な限り詰め込むなど、更に困難な状況に直面している状況がうかがえました。

一方で、展示会等の中止などにより生じた空き時間を活用して、新商品の開発や研究に取り組む窯などもあり、食器を中心とした従来型の作品に留まらない多彩なアイテムづくりなど、陶芸を軸にした多面的な活動を展開するうごきもみられます。こうしたうごきは、現段階では活動を始めてまもないために小規模に留まっているものの、多様性に満ち、業界の層を厚くするものとして、今後に期待が高まります。

■今後も調査へのご協力をお願いいたします■

地域の製造業の実態把握のため、次年度以降も本調査を継続していく予定です。調査は該当企業様へ調査票を郵送する方式により行っておりますので、お手元に届きましたら調査へのご協力をお願いいたします。なお回答をいただいた企業様へは、より詳細な調査結果をまとめた報告書をお送りさせていただきます。



その他のお知らせ



工芸センターからのお知らせ

1 「北海道産広葉樹利用促進研究会」の設立

ウッドショックに端を発する木材価格の高騰により、旭川家具業界においても材料確保が困難となっている中で、今後はナラやタモ等を中心とする従来材に樹種を限らず、より広範な種類の道産広葉樹の利用を進めていく必要があります。

こうした中で工芸センターでは、令和4年11月に、地域の木材関係団体の方々からなる「北海道産広葉樹利用促進研究会」を立ち上げ、道産材の更なる利用促進に向けた研究を行っていくこととしました。

令和5年2月までに4回の会議を開催し、木材供給の現状や、新たな樹種の利用の可能性等について、データをもとに意見交換等を行いました。今後も具体的な研究を進め、地域の安定的な家具材料の需給を目指していきます。

(研究会構成団体)

旭川林産協同組合、旭川家具工業協同組合、道立総合研究機構森林研究本部林産試験場、北海道大学工学研究院、(公財)ノーステック財団、旭川市工芸センター

2 工芸センター運営委員会

工芸センターでは、センターの運営や事業計画の策定に関して業界団体などから幅広く意見を聴く場として、関係機関や団体、教育機関からの推薦による委員で構成された「旭川市工芸センター運営委員会」を設置しています。

令和4年度は7月14日に開催されました。開催結果はホームページからご覧になれます。



3 人事異動報告

令和4年4月1日付けで、以下の職員の異動がありました。

<転出>

成田万里子（子育て助成課へ）
久保 康典（退職）

<転入>

稲垣 啓（社会教育課より）
佐橋智弘（旭山動物園より）

工芸ニュース 第86号 発行年月/令和5年3月

発行/旭川市工芸センター

〒078-8801 旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内

TEL: 0166-66-1770 FAX: 0166-66-1776

E-mail: kougeicenter@city.asahikawa.lg.jp

HP: <https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/364/365/369/d053192.html>